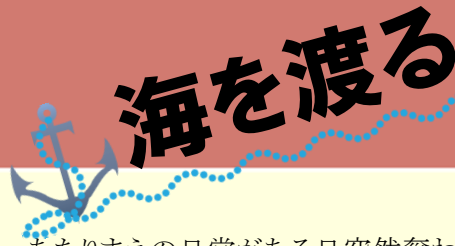


市民公開・国際シンポジウム

映画『それでもボクはやってない』



東アジアの法教育と大学生の法意識

あたりまえの日常がある日突然奪われたら・・・映画『それでもボクはやってない』公開から9年。痴漢冤罪事件を題材に、刑事司法のあり方に疑問を投げかけた周防正行監督の作品を、中国、台湾、香港、日本の若い世代はどう観たのでしょうか。

日本では2009年から裁判員制度が始まり、2016年より選挙権年齢が18歳に引き下げられます。若者の法意識を育てる法教育とは？東アジアの今を市民のみなさんとともに考えます。

2016年 **1**月 **10**日(日)
13:00～17:45

於 東京大学駒場キャンパス
18号館ホール

入場無料

当日 18:00～20:00

懇親会 一般 4,000円 学生 2,000円

当日受付もいたしますが、会場の都合でできるだけ事前のお申し込みをお願いいたします。次のアドレスに①～④をお送りください。

soredemo160110@gmail.com

- ① 氏名 (フリガナ)
- ② ご所属
- ③ メールアドレス、電話番号
- ④ 懇親会の参加・不参加

プログラム

12:30 開場

13:00～13:10

開会のあいさつ・趣旨説明 阿古 智子(東京大学教員)
映画『それでもボクはやってない』ダイジェスト放映

13:10～13:55

対談「日本の刑事司法、中国の刑事司法」
周防 正行(映画監督)×胡 貴雲(中国弁護士)
司会・石塚 迅(山梨大学教員)

14:00～15:15

報告「東アジアの大学教員は『それでもボクはやってない』をどう観せたか？」
台湾: 徐 筱菁(台北教育大学教員)
中国: 張 万洪(武漢大学教員)
香港: ラウ・トレーシー(香港バプティスト大学教員)
日本: 石塚 迅

15:15～15:30 休憩

15:30～15:50

アンケート分析「東アジア大学生の法意識を探る」
阿古 智子

15:55～17:35

座談会「東アジアの大学生は『それでもボクはやってない』をどう観たか？」
周防 正行×李丹(NGO交差点藝文空間主宰)×香港、台湾、日本の学生 司会・山崎 直也(帝京大学教員)

17:35～17:45 閉会のあいさつ 阿古 智子

